

もう2年になる。今まで毎日教室のセットアップに明け暮れ、自分の研究から離れて久しい。教授になる前は色々な不満があった、しかし立場を代えて見るとあの時のあの考えは間違いだったと思うことが沢山ある。人は大きな立場で見ると事よりも、自分の目先の事を優先しがちだ。一種の餓鬼道なのだろうが、なかなかそれから逃れる事は難しい。大いに反省することしきりである。ともあれ今は、自分がこれはすまい、これはやろう、そう昔思った事をできるだけやろうと思っている。時たま、思いつきの様に出す方針も、それが理想（勝手に自分でそう判断している事の方が問題かも）への一步と理解して戴けるとありがたいが、つき合わされる教室員の方はさぞ迷惑な事と思う。

今、最大の願望、それは自分に研究をやらせて欲しいと言う事。毎日の様々な雑用は、こんな分不相応な所にいさせて貰う見返りとは思いますが、それにしても、雑用の苦手な私には大変な負荷である。帰る道すがら思う事は、「今日は一体俺、何したんだろう？」である。いつもいつもただむなしい。

しかし、最近こんなむなしさを救ってくれる一つの驚きがあった。それは先日の仕事ゼミで、河野君が見せてくれた、生きた好中球の貪食の瞬間の顕微画像のビデオである。実はチームリーダーの洲崎さんが頑張って、チーム一丸となった涙ぐましい努力の結果なのだが、この迫力には驚いた。そして「ああ、ようやく一つのプロジェクトが立ち上がった！」と本当に感謝した。

今教室は、「細胞1ヶの分析法開発と生化学への応用」を目指して頑張っている（つもりである）。プロジェクトとしては、「極微量分離分析」「顕微画像分析」「遺伝子極微量分析」と別れている。その内の一つが動き始めたのである。

つい数日前には、「理想と現実のギャップは大きいほう」と悲観して、幾江に嘆いた自分であったのだ。

これに力を得て、石の上にも3年、もう少し頑張ってみようと思っている。早く世界の先端付近に、皆が”ワープ”してくれたらと願いつつ。

それから、教室運営について今考えている事少しお話しします。

この教室は皆さんが、皆さんの為につくる道場です。一部の人（例えば教授、助教授）の為にあるのではなく、皆のものです。しかしその代わり、この道場を自分を鍛える場として、厳しくしかし魅力あるものにして欲しいのです。その中でみんなが成長し、一日も早く色々な所で、お互いキラ星の様に活躍できるようになればと思うのです。

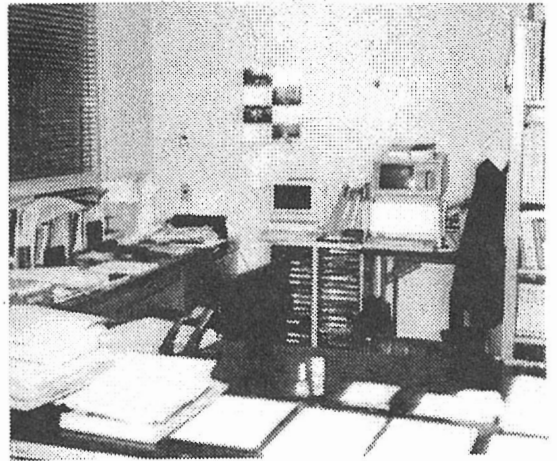
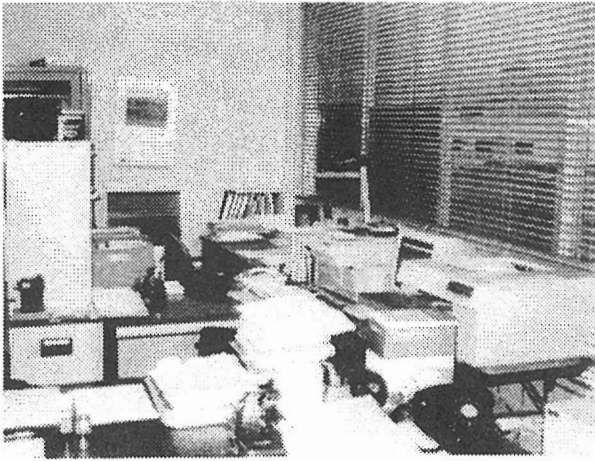
職員にも、お互い任期がある。一度も外の飯を食わないでこの教室に残るのはやめよう。そう言っています。研究の連続性は確かに大切ですが、自分の安住の地にして、教室を低迷させる事が一番申し訳ないことで、我々が気をつけなくてはならない点だと思います。

卒業生の皆さんも、職場に或いは自分の居る場に文句を言う暇があったら、そういう自分をもう一度見直して下さい。そうでなくて、あすを夢見ての相談なら、いつでも相談に乗ります、協力を惜しみません。もっとも出来る事はまだまだ若造の自分には知れた事かも知れませんが。

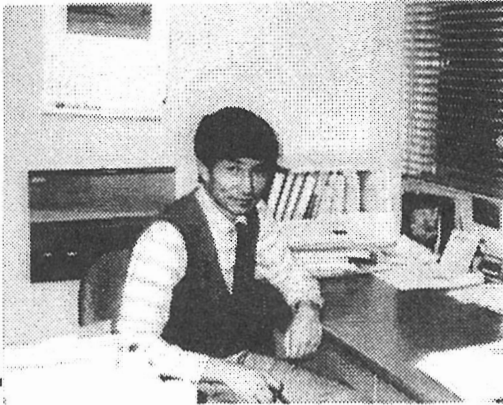
またまた、出来もしないおまえのキレイ事が始まった。そう言われそうです。いいのです。それは皆さんとの戦いではなく、他ならないこの木偶の坊の自分との戦いなのですから。

生きがいのある大きな人生を送りたく思っています。
(今の自分の、また出来もしない努力目標です。)

元気で頑張ってください！
そしてちょくちょく遊びに来て下さい。待っています。



5階教授・助教授執務室



升島（教授）